

## 第1学年4組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

令和6年11月1日（金）第2校時

場所 ホール

授業者 平葉月

### 1 題材名 地域での協働を目指して（家族・家庭生活）

### 2 題材の目標

地域を盛り上げるために活動する「丸岡かがやきビト」を見つけ、関わり、「丸岡かがやきビト」と共に地域のために何ができるかを考えるという実践的・体験的な活動を通して、高齢者や地域の人々と協働するための知識を身につける。高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、よりよい生活に向けて課題を解決する力、地域の人々との関わり方を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。

### 3 題材の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	家庭生活は、地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々と協働する必要があることや、介護など高齢者との関わり方について理解している。	高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家庭や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、地域との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って家族・家庭や地域の人々との関わりを改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

### 4 題材の構想

#### (1) 題材について

少子高齢化に対応して、現行の学習指導要領では、幼児とふれあう活動を一層充実するとともに、高齢者など地域の人々と協働することに関する内容を新設している。家庭や地域との連携を図り、人と関わる活動を充実させることにより、生徒が家庭生活や地域を支える一員であることを自覚できるようにすることを意図したものであると思われる。

2025年、福井県は、65歳以上の高齢者の人口割合を示す「高齢化率」が32.5%になる見込みとなり、全国平均を上回る予想である。生徒たちが住んでいる坂井市では、65歳以上の親族がいる世帯が全世帯の52.7%と三世同居や近居も多い。高齢者が増えているだけでなく、生産年齢人口が減少しており、将来地域を支える担い手不足の課題もある。

本校では、全学年の総合的な学習の時間に「住み続けられるまちづくり」をテーマとし、系統立てて活動に取り組んでいる。坂井市丸岡町が誰にとっても住みやすく、住み続けていくことのできるまちになるよう自分たちで課題を見つけ解決に向けて活動している。家族・家庭や地域との関わりについて学ぶ本題材は、限られた授業時間や人材という課題が多い中で、総合的な学習の時間での学びを生かしながら学びを深めていくことができる。生徒は高齢者など地域の人々との交流を通して、よりよい生活の実現に向けて、地域の人々と関わり協働する方法を工夫し、課題を解決する力を身に付けていく。そのために、意図的に地域の人とつながる機会を設け、生徒が実際に地域の人々の思いを感じながら、自分たちにできることを考えていく。

## (2) 生徒について

男子 17 名、女子 13 名、計 30 名の学級である。元気で明るい生徒が多く、授業に意欲的に取り組んでいる。授業では、グループでさまざまな意見を出し合い、仲間の考えを参考にしながら課題を解決しようとしている。事前アンケートを分析してみると、地域の行事にどの程度参加しているかという問いに対し、「いつも参加している」18.5%、「時々参加している」49.3%と答えており（図1）、半数以上の生徒が地域の行事に参加していることがわかった。どのような行事に参加しているかの問いには、地域の祭りや運動会、バーベキューなどのレクリエーション要素の高い行事への参加が多く、防災訓練や避難訓練やコミュニティーセンター主催の行事、清掃活動等へ参加する割合が低かった。また、地域の人とどのくらいかかわっているかの問いには、「いつも関わっている」13.6%、「時々関わっている」50.5%（図2）と半数以上の生徒が地域と関わっている様子が見えかけた。しかし、関わる内容としてはあいさつや食べ物のおすそ分け、お土産を渡すなどで、日々の関わりは深くないと思われる。事前アンケートの結果から、地域の人と関わり、地域行事にも参加することができていると感じているものの、地域の一員として地域の人々と積極的に関わり、地域行事を支えようとする意識が希薄であり、地域社会への参画が十分でないことが課題であることがわかる。

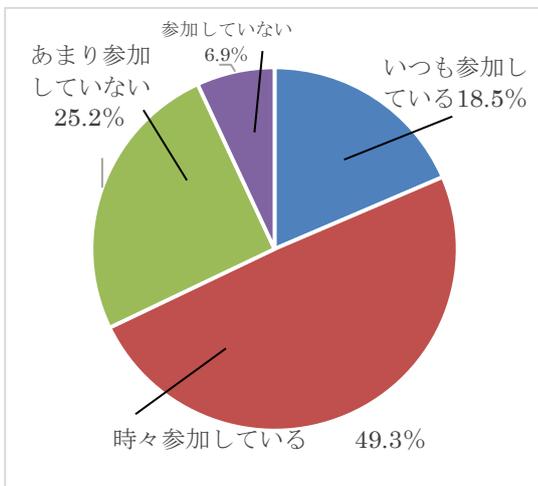


図1：地域の行事にどの程度参加しているか

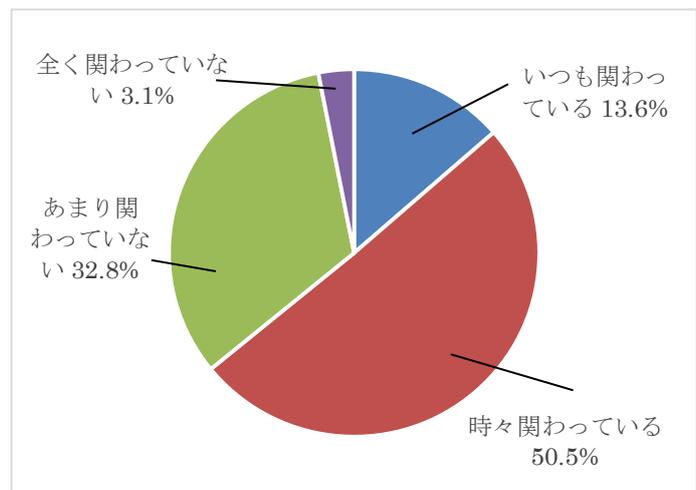


図2：地域の人とどの程度関わっているか

## (3) 授業について

地域の学習の中で重要なことは、社会の中で中学生がいかに重要な存在であり、大切な役割を担っているということに気づかせるとともに、地域の人々といっしょに活動する楽しさを味わい、それを実感することにあると思われる。地域社会の未来を考えることは、自分自身の未来を考えることにつながっていく。地域を掘り下げ、そこにある問題や課題をしっかりと理解し、自分事と受け止め、解決や改善、実現に向けてどう行動していくかを考えさせていく。地域づくりの活動を実際に取材したり、体験したりすることを通して、関わっている大人たちの思いと願いにふれるとともに、当事者意識をもって地域の目指す将来像や問題を様々な人と協働し、足元でできることを考え行動を起こすことができるようにする。そのために本題材では主体的・協働的な探究活動を取り入れた学びのプロセスを用いた授業を展開する。

生徒たちの住む坂井市丸岡町には、地域を盛り上げようと元気に活動している人々がたくさんいる。年齢も様々で中学生と同年代の人がいれば、高齢者までおり、様々な人々の支えの中で中学生は生活している。本題材では、ふるさと丸岡のために、丸岡を盛り上げる活動をしている人を「丸岡かがやきビト」と名づけ、インタビュー活動や紹介し合う活動を取り入れたり、地域に住む人々との関わりを増やすためにゲストティーチャーとして迎えたりして、地域のために何かできることはないか対話をする機会を設けていく。

第1時には、福井県池田町区長会が、県外からの移住者に向けて作成した「池田暮らしの7か条」をもとに、地域とは何かを考える。地域の良さや特性を振り返り、地域と家庭生活は関わり合いながら成り立っていることに気付かせ、中学生も地域の一員であることを再認識させたい。地域を見つめ直し、地域の人と関わる上で大切にしたいことは何かという課題を「丸岡かがやき宣言」と名付け、班ごとに考えていく。

第2時では、地域の高齢化の現状を知ったり、高齢者疑似体験を行ったりして高齢者とどのように関わっていけばよいのかを考えていく。

第3時では、「丸岡かがやきビト」を自分で見つけ出し、班ごとに詳しく紹介し合う。地域の高齢者にインタビューする際は、第2時に行った高齢者疑似体験を生かし、地域の高齢者と関わる。どんな思いで活動しているのかを知ったり、「丸岡かがやきビト」と自分との関係性を考えたりすることで、中学生の自分が地域のためにできることがないか考える機会にする。

第4時（本時）では、「丸岡かがやきビト」と共に、「丸岡かがやき宣言」を再検討する活動を通して、自分の地域への関わり方を振り返りこれからの関わり方を考えていく。

第5時では、紹介し合った「丸岡かがやきビト」と共に地域のためにやってみたいことを自分で考え、提案書を作成する。中学生が地域のためにできることはないかを考えたり、地域のために地域の人と協働したりできるようにする。以上のような授業展開により、自分や地域のよりよい生活のために、協働していく意識を高めていく。

#### 5 指導と評価の計画（第1学年5時間）

時間 指導 事項	ねらい・学習活動	○：評価規準 と ◇：評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1 A(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭生活と地域の関わりを 考えることができる。</li> <li>・地域とはどんなところか、ど のような人が生活している のかに気付く。</li> <li>・地域の人との関わり方につ いて振り返り、自分たちが できることについて話し合 う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の幼児や高 齢者など、自分 と異なる立場の 存在に気付いて いる。</li> <li>◇ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の人と関わ り、協働する方 法について考えてい る。</li> <li>◇観察、発表、 ワークシート</li> </ul>	

2 A(3)	<p>○地域に住む高齢者との関わり方について理解することができる。</p> <p>・高齢者疑似体験、介助体験を通して高齢者の思いに寄り添う。</p>	<p>○高齢者の心身的、心理的な特徴を知り、介護など高齢者との関わり方について理解している。</p> <p>◇ワークシート、観察</p>		<p>○高齢者との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組み、工夫、創造し、実践しようとしている。</p> <p>◇ワークシート、観察</p>
3 A(3) ア	<p>○地域のために活動している人々を知ることができる。</p> <p>・地域のために活動している人を紹介し、その人たちと自分たちとのつながりを考える。</p> <p>・なぜ地域のために活動しているのかを考える。</p>	<p>○家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。</p> <p>◇ワークシート</p>		
4 A(4) 本時	<p>○地域の人々の思いを知ることができる。</p> <p>・「丸岡かがやきビト」がどんな思いで活動しているかについて考える。</p> <p>・中学生が地域のためにできること「丸岡かがやき宣言」を班で再検討する。</p>		<p>○地域の人と関わり、協働する方法について、問題を見出して課題を設定し、解決策を構想する。</p> <p>◇観察、発表、ワークシート</p>	
5 A(3) A(4)	<p>○実践を振り返り、協働するための方法を再検討することができる。</p> <p>・地域の人と協働して中学生ができることを見直す。</p> <p>・地域の人と協働し、やってみたいことを提案書にまとめ、地域の人に提案する。</p>		<p>○実践を評価・改善し、課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>◇発表、ワークシート</p>	<p>○地域の人々と関わり、協働する方法について、課題に主体的に取り組んでいる。</p> <p>◇発表、ワークシート</p>

6 本時の授業（4／5）

（1）目標

地域のために活動する「丸岡かがやきビト」と共に「丸岡かがやき宣言」を再検討する活動を通して、地域の人々と関わり協働する方法について考え、工夫することができる。

（2）準備物

タブレット端末、モニター、ワークシート

（3）学習展開

○学習活動 と ・予想される生徒の活動	●指導上の留意点 と ☆評価
<p>○前時の振り返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>丸岡には地域のために活動している人がたくさんいたな。</li> </ul>	<p>●前時に紹介し合った「丸岡かがやきビト」を思い出すよう伝える。</p>
<p>「丸岡かがやきビト」の地域への思いを知り、中学生が地域のためにできることを考えよう</p>	
<p>○みんなが見つめてきた「丸岡かがやきビト」についての動画を視聴しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生でも地域のためにできることがありそうだな。</li> </ul> <p>○ゲストティーチャーから地域に対して抱いている思いを聞こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生だから期待されることもあるのだな。</li> </ul> <p>○「丸岡かがやきビト」の方々の思いを知りどう感じたか感想を発表し合おう。</p> <p>○「丸岡かがやき宣言」を班ごとに改善しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「あいさつを自分でしよう」にしていたけど、自分だけではなく、地域の人を巻き込んでできるようにしたいな。</li> </ul> <p>○「丸岡かがやき宣言」を発表しよう。</p> <p>○自分だけの「丸岡かがやき宣言」を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見守り隊の人のようににはできないけれど、近くの小中学生たちを中学生として身近に見守りたい。</li> </ul> <p>○次の時間は、「丸岡かがやきビト」と共に地域のためにやってみたいことを提案書にまとめよう。</p>	<p>●生徒が「かがやきビト」として見つめてきた人について考えることを伝える。</p> <p>●ゲストティーチャーの紹介をする。</p> <p>●班で話し合い、意見を出し合いながらよりよい関わり方について深められるよう伝える。</p> <p>●地域の人と協働するという視点について考えるよう支援する。</p> <p>●必要に応じてゲストティーチャーに相談してもよいことを伝える。</p> <p>☆地域の人々と関わり、協働する方法について課題を見出している。 【思・判・表】（観察・発表・ワークシート）</p>